

トインビー 歴史の研究①

(1~126)

2022.08.22
2022.08.08
2021.10.04
2021.09.18
2021.06.28

項目

内容

備考

トインビー史学
(7-

1. 1929年(満州問題) 厳肅な一言

1931年満州事変の2年前の秋に京都で開かれた第三回太平洋問題調査会国際会議で来国したトインビーは、日本は一つの歴史的な運命的岐路に立っていると言った。

「満州問題に対する日本の責任は大きい、それは日本の運命を決する」という厳肅な一言であった。その言葉は、日本にして一步誤まらんか、そこをみまうものはローマ帝国と戦ったカルタゴの運命であるという洞察があった。

歴史的、運命的な岐路に立っている日本の責任は大きく、日本の運命を決する。

日本は単に中国と戦うのではなく、アメリカやソ連のような、20世紀の産業的ローマ帝国と戦うことになるのであるという、世界文明の視野に立った歴史の教訓がその念頭に去来していたのである。

それ以後の歴史の進展は、トインビーの予言した方向に進む。

2. 歴史の進展

彼の歴史の理解尺度は、日本も、英國も、アメリカも、ソ連も孤立的には存在していなかった。

彼の見ていたものは、西欧文明であり、東洋文明であり、そしてその接触交渉であり、その帰結であった。

その尺度は、ギリシア・ローマ文明、否すべての既存文明の生起興亡の理論であった。

再度の来日
(11-

学び取った教訓は、その民族だけでなく、同胞である全人類のために学び取れたのである。原子力時代においては、人類は自分たちを亡ぼすまいとすれば、一つの家族となって生活することを学び取らねばならない。これこそ、日本の学び取り、そして他に教え伝えることのできる真実である。

項 目

内 容

備
考

ヘロポネス戦争
と第一次世界大戦
(16—

自分の生きている時代を、高みから眺めるのは意外に難しい。ある時代を俯瞰できるのは、その時代を終わった後の人の特権である。その特権は、歴史を読むことによって行使される。
渦中にいる人々は、得てして見通しがきかない。

(太平天国戦争の長沙攻防戦)

長沙の城壁の見物衆は、歴史を読む立場にある。歴史を読む人には、その原因からいきさつまで手にとるようにわかる。隋の南北統一は、いきなりあらわれたのではなく、広く見渡せば、その前兆をいたるところに見出せる。そして統一を促したのは文明の持つ力である。

自分たちの不足しているものを、相手方のなかに認めるのが統一の前提である、それを認める文明の力が、そこまで達していかなければならない。

文化的に進んだ南を獲得した北(隋)は、大英断をもって官僚の任命を中央に改めた。

これにまさる大英断は、科挙の制度をはじめたことである。全国から600人近い貢子が送られ、彼らは特別の試験を受けた。このときから中国の受験地獄が始まった。隋の文帝によるこの制度は、実に時宜を得たものであった。全国の秀才を吸収すると同時に新領土の人心をなだめる懷柔策でもあった。(陳瞬臣)

柳条湖事件を契機とする満州事変の勃発、国際連盟からの脱退、日華事変への拡大、太平洋戦争への発展、そして、最後に原子爆弾とソ連の参戦によって、ポツダム宣言の受諾、終戦となり、占領下におかれることとなった。

そのときになってはじめて、「16年前、われわれ日本人に対して、自らの過誤によって不幸な運命を招かないように、警告を与えてくれたトインビーのことが思い出され、忘れがたいものとなつた。」

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

われわれ日本人としては、トイインビーの警告にも
関わらず、列強の勢力均衡の番犬たる地位を忘
れ、無謀な大陸侵略政策をとった近視眼こそ、地
方的近視の典型となるものであった。(訳者)

原子力時代においては、人類は自分たちを滅ぼす
まいとすれば、一つの家族となって生活すること
を学びとらねばならない。
これこそ日本が学びとなり、そして他に伝えるこ
との真実であると、わたくしは信じる。(トイインビ
ー)

項 目

内 容

2021.08.16

備
考

1932年夏、AINシュタインが最も大事だという問題、「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか」について、心理学者フロイトと往復書簡が交わされた。

フロイトは、「人はなぜ戦争をするのか」、「戦争を確実に防止するためには、人類が一つの中央集権的な政府を設立することに合意する必要があります。

すべての利害の対立を調定する権利を、この中央政府に委ねなければなりません。

そのためには、①このように上位に立つ機構が設立されること、②その機構に必要とされる権力が譲渡されることです。」と言った。これはまるで中国の王朝である。

項 目	内 容	備 考
	<p>1933年には、満州国問題を巡り国際連盟から脱退、日本は孤立を深め、ナチスドイツとの同盟と真珠湾への道に追い込まれていく。</p> <p>日英同盟を名目に第一次大戦に参戦、1915年の対華21カ条の要求、1917年のロシア革命に対するシベリア出兵…植民地帝国への道を進み、<u>アジアの自主自尊に資する日本の選択を構想できず、欧米追従路線と進む中で、列強の番犬的な身分を、いつか忘れる行動をとったのが誤りであった。</u></p>	

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

それに対して、フロイトは「共同体を構成するには二つの条件が必要です。①暴力に対する強制と②成員の感情的な結びつきです。(心理学では同一化と呼ぶ)

ただし、片方が欠けていても、残りの条件では、共同体を維持することはできます。この片方と共に共同体の成員の一体感という理念を~~損失~~得ることが必要です。」と応じ、
持ち

「法とはもともとはむき出しの暴力だったことを忘れてはならない。^ア理念の力で現実の権力を抑えようという試みは今のところは失敗する運命にある。」

「人間がいかに戦争に熱狂するが、人間には憎悪や殺戮の欲動のようなものが働いているため戦争へと突き進んでいってしまうのではないか。」とも言っている。

「人間の欲動には二種類のものしかない。一つは、生を統一し、保存しようとする欲動(性的な欲動)、もう一つは、破壊し、殺害しようという欲動です。(攻撃欲動ともいう)

物理学の分野でいう、引力と反発力に類似したもの、この二つの欲動が協力し、対抗することで生命のさまざまな現象が誕生するのです。」と言っている。

死の欲動とエロスの欲動、心理学的な観点からの文化、文化の発展をもたらすものは戦争を防ぐように機能すると言っている。

項 目

内 容

備
考

第二次ポエニ戦争で敗れたカルタゴは、ローマと講和(BC202年)し、その後約50年間ローマの覇権の下で平和に生きてきた。

ところが、BC149年-146年の3年間に、二重にも三重にも重なり合って起きた不幸な偶然ともいうべき出来事により地上より滅亡してしまった。カルタゴの戦の始めは、ローマに対してではなく、同じローマ支配下にあった隣国ヌミディア王国(現アルジェリア)との争いであった。

経済力に勝るカルタゴは傭兵によってヌミディア軍をヌミディア領内にまで撤退させることに成功した。その勢いを借りて、ヌミディア王国の首都まで90キロと迫った。これは、「ハンニバル戦争」終了後の講和にあるローマの承認なしにカルタゴは他国と交戦することはできないことあることの重大な違反であった。

ローマに派遣された特使は、事態の釈明に努めるが、ローマの裁断は「首都カルタゴは破壊され、住民全員は海岸から10ローマ・マイル(約15キロ)離れた内陸部に移住すること」であった。カルタゴの代表はこれを飲んで帰国せざるを得なかった。

ローマの要求を飲んで帰国した代表団は、裏切者の非難をあびて、怒り狂った民衆の手で殺された。

そして、カルタゴの民衆が、反ローマに立ち上がった。

こうしてローマとカルタゴは、最後の時を迎えた。

陥落後のカルタゴは、城壁も神殿も家も市場の建物もことごとく破壊された。

そして、石と土だけになった地表は、平らになられ、ローマ人が神々に呪われた地にするやり方で、一面に塩が撒かれた。草も生えず、人間が住めない不毛地帯と断罪された。

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

しかし、カルタゴを滅亡させたローマは、まもなく新たな問題を抱えこむことになる。ヌミディア(現アルジェリア)の強大化に歯止めをかける存在を抹殺してしまったことになったからである。

項 目	内 容	備 考
-----	-----	-----

4. 現代の三諸悪(トインビー)

三つの関係の正常化(池田)

(1)貪欲 (自己の内面)

(2)戦争、社会的不公正(人間対人間)

(3)利己的人為的破壊(人間対自然)

5. 宗教の性格

(1)一神教(キリスト教、イスラム教)－文化の中斷、狂信性
人間がその欲望を満たすために、人間以外の宇宙を利用する権利があるとする。

(2)一汎神教(仏教)－文化の継続、共存

6. 西欧の伝統的宗教にとって変わったもの

第一 近代文明、科学的技術の進歩の信仰

(広島と長崎に投下された二個の原爆)

第二 ナショナリズム、地域社会における人間の集団力の信仰

キリスト教以前のギリシャ・ローマ世界における都市国家
(アメリカ独立戦争、フランス革命の狂信性)

第三 共産主義による社会的不公正の指弾

(不寛容性と排他性、キリスト教の派生的)

「唯一全能の神」→「歴史的必然」への置換

「選ばれた民」→「プロレタリアート」

「一千年王国」→「国家の消滅」

「全人類を改宗させる使命」→「伝道的宗教」「共産主義」

7. 古い宗教、信仰は、人間の欲望、自己の抑制

新しい宗教、信仰は、自己と欲望の解放

8. 仏教を求めて

- (1)後漢の明帝(64)が、身のたけ一丈六尺の像が宮中の庭に降りたった夢を見た。
- (2)明帝は群臣を集めて、問うたところそれは、西域の浮図だという者があり、郎中の蔡愔を西域に使に出すこととした。

米中対立の先に待つもの(前景)

(津上俊哉著 2022年2月日本経済新聞出版刊)

2022.08.22

2022.08.08

2022.08.01

歴史は、「貧富の格差」問題について、人類が累積する矛盾を解決できないときには、それまでの世界の仕組みが破局を迎えるかたちで、矛盾を解決するというパターンを取るようと思える。

戦後、ドイツのインフレ、大恐慌、中国の王朝の交替・・・。

100年の時間を経て歴史が繰り返すのか？

世界の経済政策のトレンドの繰り返し。

自由貿易から世界大恐慌を経て、ニューディール政策に見るような

「政府の経済への強力な干渉、大きな政府」を経て、

「自由貿易、小さな政府、ネオ・リベラリズム」へ、そして

「政府の経済介入の強化、大きな政府、配分重視」の方向への転換

→政府の経済への介入は、経済の硬直化を招くと思われる

・・・経験したことない事態を前にして、

先の見えない思いをするときは、歴史を参照する必要がある。

デジタル通貨(中国のアキレス腱の解消)

デジタル人民元(ドル決済が止まる時に備えて)

ファーウェイ、アリババ、テンセントなど、中国を代表するIT企業が、今開発・展開しているOS(基本ソフト)はみなオープン・ソースであるが、それを安全のために国家へ集結するという試み

「2020年は転換点であった」

習近平主席がトップの座についてからの9年間に、中国は随分保守化、左傾化した。しかし、2020年からの1年間の保守化、左傾化の進行度合は、それ以前の8年間の異計分を上回るものがあった。

この左傾化が中国をより独裁支配の国とした。

14億国民の集合意識(コロナパンデミックの功罪)

排害的な愛国主義の高まり

米中対立の激化は、中国人の集合意識を準戦時モードの変えてしまったのではないか。

しかし、米中対立は、大変化の前奏曲かもしれない(国際形勢の大変化)。

中国の支配層で今、大きな変化が起きていると思われる。

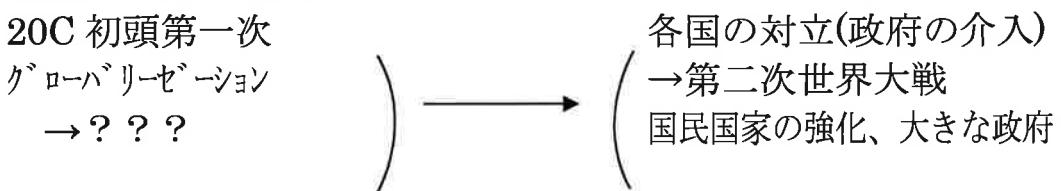
現状(2022.1.頃)

1. コロナ・パンデミック前の世界には戻らないと誰もが直感している
中国は一带一路など割と対外的に平和であったが、コロナ対応で一
気に強硬になった。

2. 世界の経済政策のトレンドの変化



3. 1930年代との類似



100年前の歴史を参考する必要！！

歴史は繰り返す

4. グレートリセット

100年目の大変動、コロナパンデミックが中国の愛国心にスイ
ッチを入れた左傾化は行きすぎたのではないか。

コロナ・パンデミック前の世界→後の方向

米国 : (1) 「ディール重視」の貿易戦争
 (2) 「ハイテク冷戦」、超党派からなる対中強硬派
 →対立強硬一色

新疆ウイグル自治区での人権侵害介入

中国 : (1) 香港特区における民主派弾圧(米国の裏の煽動)
 (2) グローバリゼーションの逆流と国内大循環
 →米国の覇権の衰退という認識、中国優越論、習
 近平の要注意点(国内大循環へ)

習近平主席とトランプ元大統領の共通点(政治的鉱脈)

習近平 末端党員、反腐敗や金持退治、人民ファースト、共同富裕の姿勢
 トランプ これまで見向きもされなかった大衆層の大きな政治的鉱脈の発見

グレートリセット

1. 2020年という転換点

- 〔2020年に起きた大きな変化、100年前の歴史の参照
米国の対中感情、対中政策の変化、習近平の独裁強化〕
- (1) 新しい5ヶ年計画(2021.3正式決定(14次5計))
 - (2) 時間は中国に味方する
 - (3) 成長エンジン 創新・科学技術
 - (4) 2035年の遠景・目標
 - (5) 急激な保守化・左傾化
 - (6) 2020年の転換点「グローバリゼーション→国内大循環」
- } 国内大循環

2. 時間は中国に味方するのか？

- 〔経済で米国に上回る国は出ない。中所得国の罠、生産配分の不公平、不動産、借金依存体质、過去の成功要因からの束縛〕
- (1) 突出するデジタルチャイナ
 - (2) 米中デジタル競争の行方
 - (3) デジタル人民元が実現して、ドル決済の壁を破れるか
 - (4) 共同富裕と貧富の格差の解消はできるか
 - (5) 3期目、習近平政権を待ち受ける試練
 - (6) 不動産バブルの行方と解消は解消の難しい大きな課題
 - (7) 富の偏在は解消できるか
 - (8) 重い足枷、中国財政の厳しい未来をどうするか
 - (9) 少子高齢化、一人っ子政策の反動をどう乗り切るか

3. 振り子としての中国

- (中国共産党への批判、中国を変える変数、モデル式)
- (1) 文革世代では中国の新時代を拓けない
 - (2) タテ軸制御システム 何でも党が指導(　に対するチェックの不足)
 - (3) 中国はまた変わる可能性がある

4. 國際秩序のグレート・リセット

- 〔これからの中の世界、100年前のグレートリセットの参考
コロナ・米中対立、ロシアの進政、自由貿易体制の縮小〕
- (1) 米中対立にどう臨むか(左傾化は行きすぎていないか)
 - (2) インフレは発生するか
 - (3) 日本はどう生きて行くべきか

中国の政治の重心はどこにあるのか？

1. 経済は保守的と見ると

外交安保は**強硬**

(前面に出てこない)

...現役トップ

習近平ら文革世代

(現実の中国)

2. 経済は改革的と見ると

外交安保は**協調的**

(前面に出てくる)

...西側観察者のサンプリング

観察の誤り易い点、偏り易い点

チャイナ・ウォッチャーの中国観察サンプリングは、大きな偏りがある可能性がある。

例

サプライチェーンの安全確保

ファーウェイ問題に発して

過去の日本の例を見ても解るように米国は2番手の国がGDPで米国の6割に達するとその国をつぶしにかかる

経営則

2019年3月、米中の貿易交渉の折、交渉を続けていた米国のライトハイザー代表がラジオ番組に出演して、「中国には改革を進めることが、中国の国益になると信ずる人々がいる。彼等と交渉すべきだ」と発言した。

この発言が大きな間違いであったことが後日判明し、ライトハイザーは強く批判された。

中国の政治の重心はどこにあるのか



デジタル人民元とは何か

1. 米国の状況と米国の懸念

① 寡占化の容認(米国)

フリー・アンド・オープン・インターネット

(インターネットは政府が規制などをかけるべきでない)

② ①を利用して強者の自由を欲しいままにする米国プラットフォーム企業

技術の流出を防ぐため、技術開発をどんどん内製化し、内部完結的な王国を築いてゆく GAFA

③ ②が進展すれば、プラットフォーム企業(GAFA)の国からの独立を認めることになり、国家として有害ではないか

2. 中国にとって最も最大なアキレス腱は国際決済(ドル依存からの脱却ができない・・・)

3. デジタル人民元とはミクロベースに拡大するマネー管理

貨幣流通量などマクロベースのマネー管理は、国が管理し、個人や企業の現金保有等ミクロベースの管理は金融機関が行っている

デジタル人民元とは国が金融機関に代わり、ミクロベースも管理することである(ドル依存からの脱却を図れる)

4. 中国は 2021.2 香港、タイ、アラブ首長国連邦の中央銀行と「デジタル通過ブリッジ研究事業」で合意した

5. もし、米国が中国金融機関に大々的な金融制裁をしても、「中国デジタル通過ブリッジ」から金融は調達できることになる。

即ち、「ドル決済」が制約されても、「デジタル人民元」決済で、問題なく管理ができる

3期目・習近平政権の試練

1. 中国成長政策の過去の成功

2008年リーマンショック

胡錦濤・温家宝政権は、成長率の低下を恐れて4兆元の投資刺激策を断行した。中国経済は世界に先駆けて急回復、リーマンショックからの落ち込みから脱出し、世界経済を牽引した。

2. 高成長はまだ続くという幻想

現状意識の欠如があるのではないか

3. 高成長維持幻想の呪縛

高成長の維持期間はあとわずかと考えるべきではないか

4. 中国の年金財政(2019年度)

(単位：兆円)

	中 国	日 本
年金収入	689(100)	391(100)
〃 支出	847	530
収支差	△158(△22.9)	△139(△35.5)

5. 社会保障関係赤字

年 度	金額(兆元)
2011	△1
2013	△2
2016	△6
2019	△13

6. 地方財政

第4次5計(2021～2026)の期間中、全省の4分の1は、財政収入の50%以上を元利償還に充てることになるだろう

上海市、海南省、広東省、チベット自治区を除き債務超過状態の地方財政は、国家の大きな足枷となる。

7. 習近平の共同富裕はスローガンだけでなく、実効性はあるのか

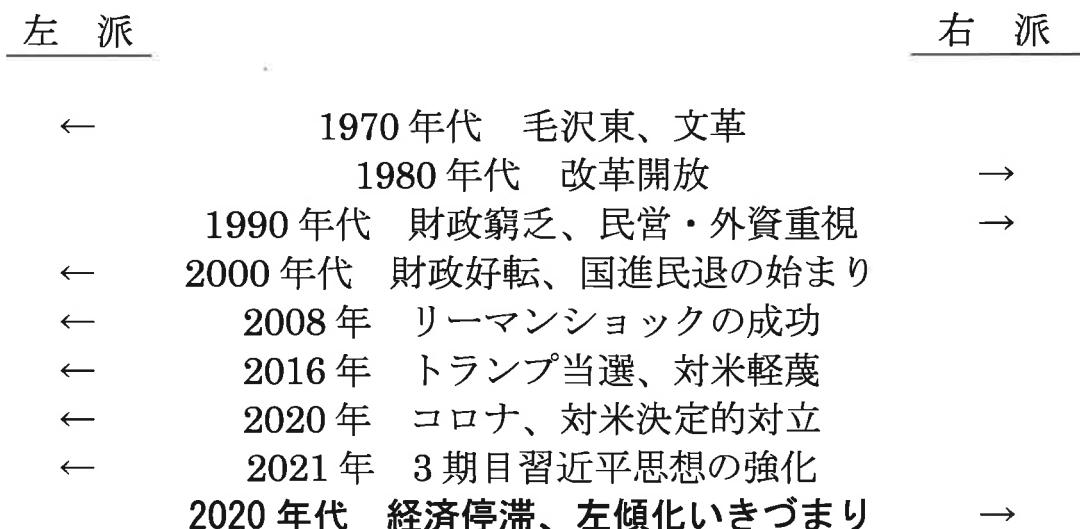
中国は「振り子」仮説

1. 高成長維持幻想
・・・時代遅れとなりつつある

2. 仰視・平視・俯視の流れ

<u>左派・保守派</u>	<u>右派(右へのスイング)</u>
マルクスレーニン主義	西側価値観を理解 市場の動きを重視
共産党一党独裁 権力集中	国際協調を重視
計画経済	改革開放の方向
反米色	南巡講話 1992 貧しくて暗い中国へ戻りたいか
1989 天安門事件	社会主義市場経済 WTO 加盟 2001 民営企業の認知

3. 振り子



仰視・平視・俯視

1. 中国の振り子 財政事情

風 潮		
1990 年	中国は遅れている	(仰 視)
2008 年	リーマンショック 中国のみいち早く経 済が急回復 世界経済の救世主	(平 視)
2016 年	トランプ	(俯 視)
2020 年	コロナ 特に 2020 年を境に中国人の対米観 に大きな変化が生まれた	

2. 佐橋亮准「米中対立」

- (1) 3 つの期待外れ 市場改革、政治改革、国際貢献
- (2) 中国パワーの米国接近、権力交代

3. 程曉農

中共やソ連の政体は、個人集権と集団指導の間を振り子のように動く

4. 方向方程式

$Z = f(x, y)$ モデル

x : 財政の壞具合

y : 中国と西側との上下関係(仰視、平視、俯視)

z : 中国の方向

5. 習近平の共同富裕は、本当に達成できるのか 金持から→貧乏人への所得の移転は可能か

中国共産党の歴史(的)決議など

1. 1945 (コミニテルン)ソ連留学組の追い落とし
 2. 1978 党が文革で犯した過ちの総括
 3. 2021.3 14次5計(新5ヶ年計画、国内大循環)
 4. 2021.11 6全中会(歴史(的)決議)
 5. 2022秋 中国共産党第20回党大会
 6. 韻光養晦(十分な力を備えるまでは内に力を備える)
 7. ソ連崩壊の時
中国がソ連を引継いで国際共産主義運動の総本山に
いう一部の意見に対し、
鄧小平は言った！！
「決して頭目になろうとしてはいけない、我々にそ

8、中国GDP美元、大中华国排位，2022年和2023年大会

復宋集卷之二

孫得林化 3918

2022.7.4

八



演習は7日までで台湾を取り囲む六つの空・海域で大規模な実弾射撃訓練を展開。一部は台湾の領海と重

た。 領土と見なしており、中国
国防省は「演習は米国と台
湾の結託に対する厳正なる
威嚇だ」との談話を発表し

りの台湾訪問を終えた。ペロシ氏は3日、声明で、中国の軍事圧力に直面する中で「台湾の自由を守る米議会の決意を示した」と成果を強調した。



どうか悩んだ。自粛期間は3日と短く（組合員は）我慢できると思う。さらに1週間、10日と延びたら大変なことになる」と話した。

軍事分野における対話や司法互助、気候変動問題での協議などを停止すると発表。米中関係の一層の悪化は必至だ。

中間線は米国や台湾が設定したが、中国も不測の事態を回避するため尊重してきた。だが近年、中国は中間線の存在を明確に否定し、軍用機を台湾側に進入させるケースが増加。今後、軍艦の中間線越えを常態化させ、軍事行動を過激化させる恐れがある。

日本（グレート・リセットに対して）

1. 1980年代の黄金時代は去った
2. 最近までの落込み、衰退、下げ止まりの気配もない
3. しかし、依然として大国の一角、21Cを生き抜く必要性がある
4. 課題先進国として
不良債権の処理、ゼロ金利政策、少子高齢化、人手不足
新しいことを始めるのが遅くて下手
5. 生き残りに有利な国民性
現場力の強さ
ムラ的なまとまりで集団の安定
災難に対する自律的回復、安定、秩序
学ぶ（模倣）ことの得意な国民性
明治維新、戦後の復興という成功体験
6. 消化、改善することの上手な国民性
古代、中世、江戸時代

大中国は、日本に対する脅威として米がアフリカといふ
のではなく、日本から至るに恐怖はない
けれども、それが恐懼はない国家となりて、21世紀を
乗り切って行く地位を持つべきである

2012.12 大中国 寺島実郎著 NHK出版

歴史的K 2000年の長期に渡り、二速成長をかけ、多大な本拠地を
作り、中国に対し、日本は、徐々に感謝の意を持ち、
今後の中国の発展に肯定的な態度を持へるべきである。

米中対立の 先に待つもの

What Lies Ahead in the
U.S.-China Conflict

津上俊哉

グレート・
リセットに
備えよ



中国の膨張主義は
永続きしない

日本経済新聞出版

中国は「振り子」のように変わる。
米中対立は大変化の前奏曲にすぎない。

日本経済への最後の警告

2022. 08. 22

政治・社会・文化TV人

(2002. 8. 20
後悔書未発行)

1. 2002年、

今、日本経済は未曾有の低迷状態に直面している

(1) 1960年代の急成長期

(2) 1980年代の絶頂期

2. 日本人への危機

(1) 1945. 8. 15 政治犯

(2) 若き日の二ツ子

(3) 独裁者は世界一優秀な国民

(4) 政府の指導者のミクロ的化現象

(5) 2002年と長期の将来展望

政治・社会・文化TV人

3. ハインズ経済学

(1) 第一次大戦後のハインズ経済の建立起

(2) 第二次大戦後のハインズ経済

(3) 政府の役割の変化

第二次世界大戦後の「日本的新鮮」、「トライの奇跡」

ドイツの経済再建の外貨準備に従事。

一種、「资本主义的計画的經濟」の実行体制 成立

Planned economy

中国・鄧小平も同じ

5. 合特重視の経済学の失敗

サボラクサバーニー経済学 レガル・サバーニー

6. ドイツの経済学

政府による経済需要の管理政策によって

経済をコントロールする

7. レギー・ミード

サボラクサバーニー経済学

7

富の供給側。(大資本、大企業、合特の利益)

の利益の擁護。

大資本政体の付次面。

--- 改革 民主化、福祉制度の堅持。

8. サーライト（供給側）のインセンティブや
利益を重視する考え方は、
アカウント（消費者、会員）に対する
大幅な負担増とならず

ルールベース（アカウント） インセンティブ

政府の役割を積極的に發揮し、
「国民」の使命を創出する

V-Accrue (サーライト)

政府は介入しない
医療や社会保障等の大枠を削減

9. レーガン時代の極端な自由化主義
日本への影響

ノーブル経済 → 大崩壊 → 大不況



政府の好きなときに
好きなことの実現
好きなことをしゃべった。

10. 行動の100回向

アクション・アーチスト

4

11. 何のための構造改革か

- (1) 学生社会による改革が一朝得たい
- (2) ハーバードとハーバード
- (3) ハーバード院: 帰けをつかつてはいきたい
- (4) 高い目標で 改革へいきたい

12. 後進国 ^{アメリカ} (18世紀) の奇跡

- (1) オー大統領による軍事優先
- (2) ヨーロッパ ^{先進} 国の経済的领先 (大英帝国)
- (3) アメリカのハーバード優先

13. 小泉政権の失敗

- (1) 日本の底を知るにはヨーロッパが子因は
- (2) キックオフ 1980年後半のハーバード優先
- (3) レーガンのサムライサム・経済学

14. テインス革命 反テインス革命
サボライザトの流亡

15. サボライザト入国された日本
ルーラン

30年間の停滞

2001年4月の小泉政権の誕生

政府の財政負担の軽減

サボライザト

会社化政策

16

デニントン

サボライザト

消费者

供给

帝国者

企业

生活

提供

消费者

收入

算計

政府

争わせ

18. 貨物 成果

貯蓄

消費、生活

蓄積

需要

(化組)

供給

思考

思考

国民

生活

需要の化組

国民

蓄積

庶民

供給の化組

金持

個人

需要偏重

企

樂才

供給偏重

忍耐

個人

益々

組織

バランス

19. ディクトサトーリー サポートサトーリー

会体の私産

個人の自由

個人の权利

组织の制約

组织の支配

道徳

私産

規制

個人の不平等

自由放任

経済的公食

支配の論理

個人的規制

個人の私産

政治

会体 "

政策

経済

20. ケインズ革命

普通生活する人の章七

満足

2002年以降の景気拡大 財政収支

産業 → 実感叶成に仕事
不足、金融の叶。

世界経済危機

産業 → 走る。

日本の停継

20年 2001~2022年

21. ケインズ経済学

慢性的な失業と不況のメカニズム

富の分配の不平等

21. ケインズ

不況(有効需要不足)

有効需要の不足する理由

→ 流動性選好のため
消費拡大へ

消費拡大 → 政府による投資

公共事業による影響?

22. 経済量を決定するものは何か? の見

貯蓄、生産、販売 不況

有効需要の不足による不況の発生

↓
流動性選好

23. 不況の原因

<u>ケインズ</u>	<u>供給側の原因</u>
有効需要の不足	供給側に原因
デフレーション経済学	サブプライム経済学
雇用量が外へ逃げ	
有効需要 不足→失業	流动性过剩 貨幣の保有 消費と投資の 不活化
不況の原因は需要側のみ	

24. リクンジングルーヴーの経済 (交接のない経済)

供給量に対して需要量が均衡する

25. 有効需要

消費と投資
有効需要の減少によって雇用量が決まる。

26. 一国の有効需要を満足させると、

その国への利用可能な荷物量は、必ずしも
必要に応じたとは限らない!!

(18+)

着印の

既供給量 → 荷物 ← 送需要量

①

余
量

と
荷
物
量
が
決
ま
る

荷物の量
が

手
取
り
方
法
模
↓

有効需要

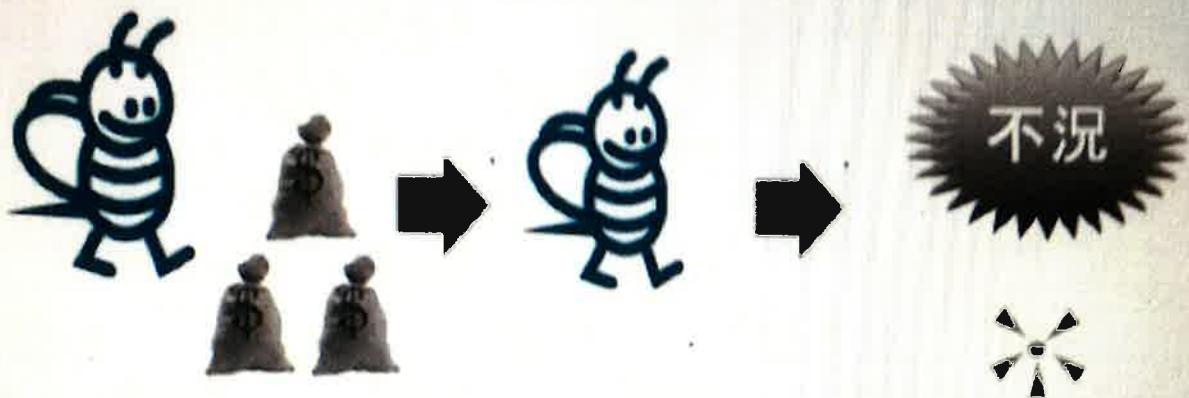
27. 需要不足による不況の発生

消費の控えによるもの 有効需要の低下 +
非自然な失業の増加 → インフレーション

蜂の寓話

「蜂の寓話」

by バーナード・マンドヴィル

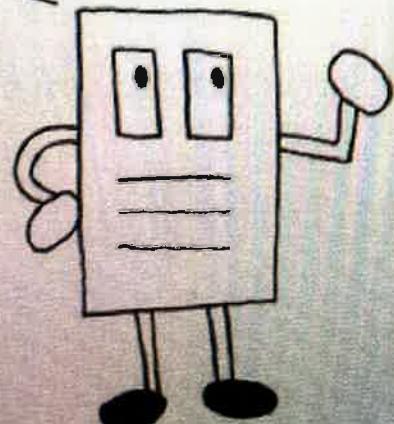


贅沢な蜂が

贅沢を止めた
途端

蜂の社会は
火が消えたように
なりました

不況を回避するには清濁を
併せて呑む度量が必要。

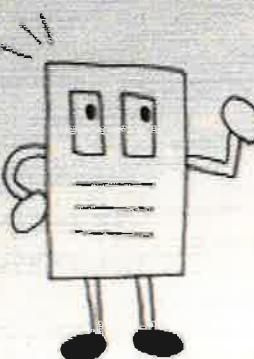


僕約ばかりでは、
社会は成り立たなく
なるのである。

流動性の罠

低下

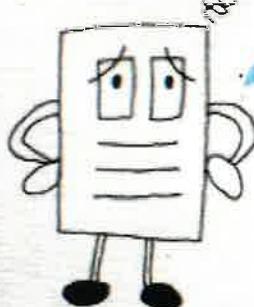
利子率



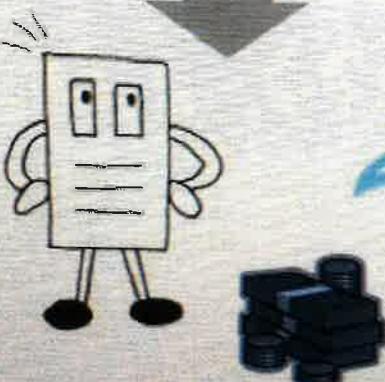
利子率が
下がったし、
投資するぞー。

となるはずが…

不況
社会不安

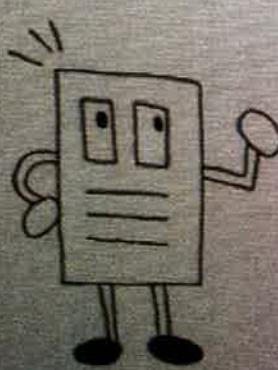


しかし、
利子率が下がった
とはいえ、先行きは
不透明…。



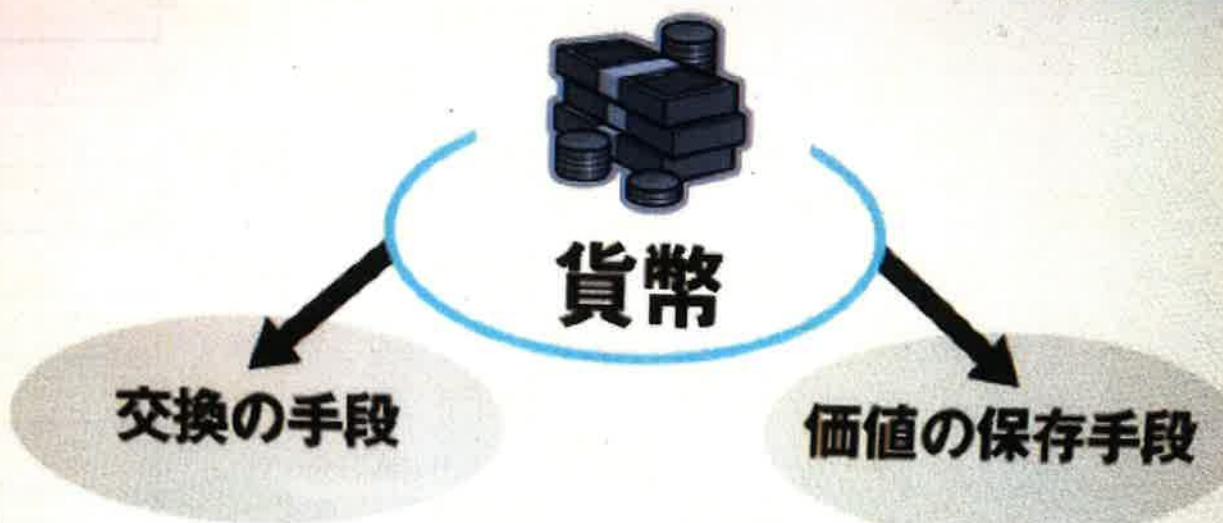
心配だから、
手元にお金を
置いておこう。

流動性の罠



これが流動性の罠だ。
こうなると利子を下げても
無意味になる。

貨幣の魔力



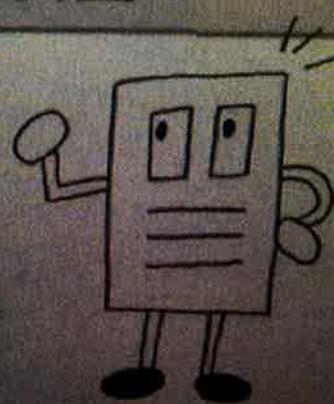
いくら保存しても邪魔にならない

||
流動性選好に飽和点なし

▼
貨幣を貯め込んでも、雇用を増やせるわけではない！

▼
不況の要因

貨幣ほど不思議な
魔力をもつものはない。



流動性選好の動機

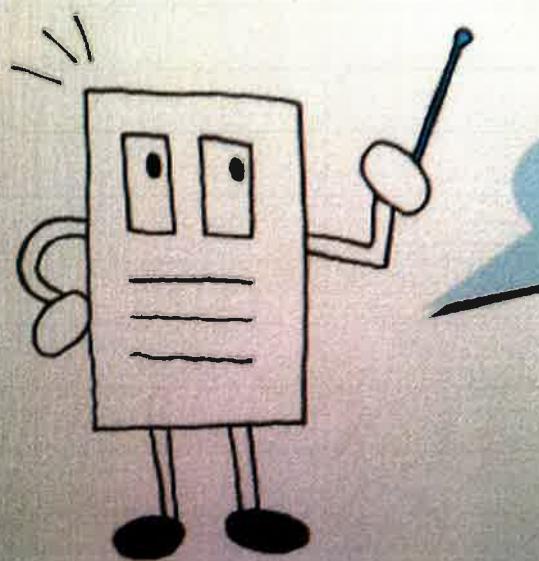
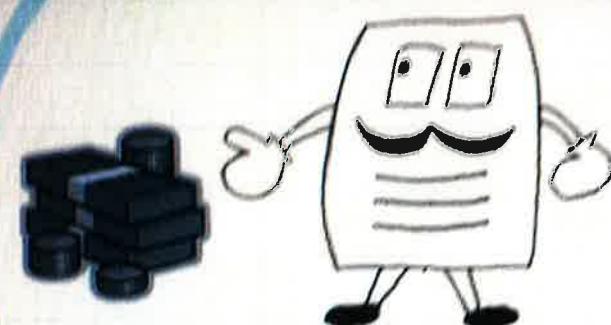
所得動機

営業動機

流動性選好の
動機

予備的動機

投機的動機



投機的動機が高まると、
消費や投資に
お金が回らなくなる。